



信州の環境と知に根ざしたESDコンソーシアムの形成

信州ESD通信

No. **33**

2020.3.10

信州 ESD
コンソーシアム
事務局

目次：学びあいセミナー(仙台)/高大生応援セミナー(SDGsに貢献！)

2月8日 仙台での学びあいセミナーに参加しました

宮城教育大学で東北コンソーシアム主催により第一部：コンソーシアムのESD for SDGs 発表会、第二部：各地での研究実践報告会が開催されました。

第一部では、モデル地域からの成果発表として、①岩手県平泉町教育委員会からは、長島小学校での「平泉学」で4,5,6年生が地元の遺産や課題に取り組み学習した成果発表会の様子が紹介された。②宮城県気仙沼市教育委員会からは、地域のESD推進の要として「ESD/RCE 円卓会議」を学校関係者のみでなく教育研究機関・関係行政機関・地域の企業/NPO/報道など多様な組織が参加して共にESDを学び議論する場を設けていることが紹介された。また、震災をうけての防災教育では「海と生きる」をテーマに海洋教育にも取り組んでいる。③福島県只見町教育委員会からは「エコパークを軸に持続可能な交流人口づくり」をテーマに、全小中校がユネスコスクールとなり郷土学習「只見学」を学年ごとにSDGs目標を位置付けたストーリーマップを作成して教科、特活などの関連を図りながら実践している事例発表があった。④世界農業遺産「大崎耕土」について大崎市から、1市4町、2河川、3万ha、6千Kmの水路での400年前からの伝統的な水管理組織をもつ大崎耕土の紹介とその地域資源としての再発見によるESD活動が紹介された。

以上の紹介後に、東大の及川先生、ESD支援センターの鈴木先生、ユネスコ国内委員会事務局の大杉氏からそれぞれの講評があった。ESD先進地としての優れた特徴である、ユネスコスクールの発祥の地、学校・地域が一体となったESD、東北6県の広域でかつ多様な地域ごとの宝、震災を遺産に世界会議を開催し復興に貢献するESDともなっていることなど、高い評価がなされ、今後の一層のランクアップが期待された。

第二部の最初に①「ユネスコエコパーク*ESD:人と自然が共生する持続可能な社会づくり」として信州ESDコンソーシアムの水谷・渡辺により、志賀高原のエコパークを軸としたESD活動(環境学習プログラム・ユネスコスクール・地域活動・信州大学教育学部自然教育園・エコパークセミナー)を紹介し、エコパークが人と自然が共生する持続可能な社会づくりのESDの良いモデル地域になると紹介した。その後、②仙台市秋保中学校の小さなコンソーシアムとしてのESDとして地域から海外発信までの幅広い活動を、③福島高専におけるJSTS(持続可能性技術のための日本セミナー)として日本・マレーシア・フィリピンの3大学・高専の持続可能キャンパス会議開催、④宮城県立多賀城高校・仙台第三高校で取組むESDとしての「災害科学科」の開設とその授業内容など多数が紹介された。

こうした事例からは学校と教育委員会、地域との深い連携がみられ、ESD先進地としての長年の実践による発展が感じられ、信州においても大いに参考になるセミナーであった。(渡辺隆一)



2020年2月8日(土)
13:00~17:00 開催 参加無料
ESD/ユネスコスクール・東北コンソーシアム 学びあいセミナー
日本ESD学会東北地方研究大会

2月9日 信州高大生応援フェスが開催されました

コンソーシアムメンバーの長野県NPOセンター主催で「ユースリーチ」と「地域丸ごとキャンパス」でこの1年活動してきた高校生・大学生による報告会と講演会・討論会がおこなわれました。両団体の今年のテーマは「SDGsに貢献！」で、①ヒューマンライブラリー(人権・福祉、相互理解の空間を)、②えしかるもざいく(環境保全で環境革命を!)、③ACT(国際理解で人や国の不平等をなくす)、④(高校生の居場所づくり)Fouth Place、⑤うりこめ信州(新たな商品開発)、⑥エシカルふえす(フェアトレードを長野に!)、⑦こどもわくわくカフェ(子どもと関わってみよう!)、⑧僕らの災害復興(10月の水害にすばやくボランティア活動を高校生が始めた!)など多くの高大生が自主的に取り組んだ様々な活動の成果を楽しく発表しました。審査員の講評や会場からの晴れ・曇り・雨のボードで各発表の評価もおこなわれ、これからの活動に大きな期待がよせられました。



信州ESD通信

No.33 2020.3.10

発行：信州ESDコンソーシアム事務局 編集：渡辺隆一
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学教育学部
事務局：清水・高橋 TEL026-238-4034 kyoed@shinshu-u.ac.jp